

第 1 回 早島町振興計画審議会

会議要旨

開催日時	令和 2 年 8 月 21 日（金曜日） 13 時 30 分から 15 時 35 分まで
場所	早島町役場庁舎 3 階 全員協議会室
次第	1. 委員の委嘱 2. 委員の自己紹介 3. 町長挨拶 4. 会長、副会長の選出について 5. 報告「第 5 次早島町総合計画策定に向けて」 6. 意見交換
出席者 (委員)	【学識経験者】 （敬称略） 秋山 松男（公募委員） 阿部 宏史（岡山大学 名誉教授） 石井 謙次（岡山県 備中県民局地域づくり推進課 課長） 岩本 孝弘（岡山県総合流通センター運営協議会 事務局長） 金子 雅彦（岡山県公安委員会 委員） 日下 知章（山陽新聞社 常務取締役 倉敷本社代表） 佐々木 美智子（公募委員） 佐藤 周二（公募委員） 佐藤 均（つくぼ商工会 会長） 立間 教子（早島町社会教育委員） 徳田 恭子（特定非営利活動法人まちづくり推進機構岡山 代表理事） 原田 英和（中国銀行早島支店 支店長） 藪木 伸一（早島町老人クラブ連合会 会長） 【町議会議員】 （敬称略） 根木 一（町議会代表） 平岡 守（同上） 真鍋 和崇（同上）
出席者 (早島町)	中川町長 山本副町長 まちづくり企画課 安原課長 下井課長補佐 松下係長

発言の概要

(委員の自己紹介)

- 秋山委員 はじめまして、秋山です。この度、久しぶりに早島に帰ってきました。岡山や倉敷で仕事ばかりしておりました。早島には友達も多く、大好きです。公募の告知を見て、少しでも役に立てればと思い応募しました。よろしくお願いいたします。
- 石井委員 備中県民局地域づくり推進課の石井です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 岩本委員 岡山県総合流通センター運営協議会の岩本です。流通センターもオープン以来30数年が経過し、周辺環境も変わってきました。早島町さんも流通センター同様、周辺環境が大きく変わってきております。わたしどもも少しでも動いて、町の発展に貢献出来ればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。
- 日下委員 山陽新聞社倉敷本社の日下です。早島町さんは、わたしどもの印刷拠点であるとともに、読者の皆様の見学拠点でもあります。新聞館は2018年にオープンし、オープンの式典では副町長さんから祝辞をいただきました。早島町さんには、オープン以来、多くの方々にご来館いただき、感謝しております。新聞社の使命として、市民に開かれた企業として今後とも邁進して参りたいと思います。私自身は瀬戸内市出身ですが、妻の実家が前潟にございます。しっかり努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 佐々木委員 佐々木といいます。今回、公募で選ばれたものです。子どもは3人で、小学生と保育園児を育て、なおかつ仕事もしています。これらの子どもたちが早島町で育っていく上で、主婦の目線から子育て支援などのあり方について提案させていただきたいと思い、応募しました。どうぞよろしくお願いいたします。
- 佐藤(周)委員 公募委員を拝命しました、佐藤周二といいます。振興計画の策定に当たっては、不易流行の観点での取り組みが必要ではないかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 佐藤(均)委員 つくば商工会会長の佐藤均です。私の任期は今年で満了し、来期は早島町方が会長として任務を勤めることとなります。どうぞよろしくお願いいたします。
- 立間委員 はじめまして。社会教育委員の立間です。40年ほど社会教育委員をしております。あらためて早島町について寄り添っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
- 徳田委員 NPO 法人まちづくり推進機構岡山代表理事の徳田と申します。事務所は岡山市内にあります。早島町さんとは、何回か防災講座の講師として啓発活動のお手伝いをさせていただいております。わたしどもは、防災や中山間地域の活性化について県下全域を研究フィールドとして活動しております。どうぞよろしくお願いいたします。

- 根木委員 町議会議員の根木です。振興計画が素晴らしいものになるようがんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- 原田委員 はじめまして。中国銀行早島支店支店長の原田です。赴任して2年になります。地元金融機関として何かお手伝いできればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 平岡委員 早島町町議会議員の平岡です。早島町議会を代表して参加している3名の議員のひとりです。第5次総合計画の策定に当たり、明日の早島町をつくるため、頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。
- 真鍋委員 早島町議会の副議長を拝命させていただいている真鍋です。早島町議会を代表して3名の議員が参加させていただいています。10年先の早島町の根幹となる第5次総合計画の策定のため、町議員10名全員でがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。
- 藪木委員 早島町老人クラブ連合会長の藪木です。老人代表として参加しております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 金子委員 岡山県公安委員会委員の金子です。私はもともと JFE（川崎製鉄）の技術者で、最初の赴任地が岡山県でした。家族は倉敷にいたのですが、私は半分以上、海外や東京などに行っていました。現在やっと早島町に住めるようになりました。仕事は、岡山県警が民主的で政治的に中立の立場から業務を執行しているかとか、身近なところでは免許証の発行などに携わっています。異色の経歴ですが、過去の経験を生かして早島町に貢献出来ればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 阿部委員 最後になりますが、阿部です。岡山大学の名誉教授となっておりますが、この3月まで環境理工学部において都市計画や環境計画の分野で学生に教えていました。早島町さんとは、以前からまちづくりや都市計画の関係でお世話になっていました。現在、都市計画審議会の会長をやらせていただいています。今回は、教授（大学）を卒業しましたので、気合いを入れて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(町長挨拶)

町長 本日は、お忙しいところ、また猛暑の中ご出席いただきありがとうございます。どうぞ体調の方にも気を付けていただきたいと思います。たまたま、この部屋は、換気のできるエアコンが設置されており、コロナ防止にもなっています。町内の方々や専門家の方々からさまざまなご意見をいただき、それらを参考にして、これからこの先10年の計画づくりを行いたいと思っております。よろしくお願いいたします。

これは《い草製品》です。もともと早島町は《い草と畳表》で栄えた町です。江戸時代には、い草を植え、畳表をつくる人がたくさんいました。今の中学3年生の子どもたちが2年生のときに、総合学習で、郷土学習を行い、町

の歴史を勉強する中で、町の特産品は何かないかと検討してくれ、商品化したものです。また、高校生になった先輩たちが考えてくれたものが《スマホケース》です。これは、民芸品としても外国の方にも人気があります。いまだに、い草や畳表を取り扱っておられる卸売り業者さんが10数社おられます。このように、子どもたちだけでなく、わたしども大人も、町内の方々や専門家の方々の知恵をお借りして、この先10年の総合計画において早島町の歴史を生かしたまちづくりを位置づけることができると考えています。

早島町は、もともと島で、周囲は海だったところですが。この前、水害に遭った倉敷や岡山のところも海だったところですが。早島町は、人口が増え、企業が進出する恵まれた町ですが、このような地形条件にあるため、一気に豪雨が降ると、小田川等の急激な増水により浸水被害を受けやすく、排水の問題が早島町の弱点といえます。このような弱点をも踏まえた総合的なまちづくりが求められます。

早島町のこれまでの歩みをみると、昭和45年に町の中央に国道2号が通り、これを契機に住宅団地ができ、従来の農村地帯から都市的生活様式が可能なまちに変わり、昭和60年のはじめにはインターチェンジができ、瀬戸大橋もできました。その結果、物流業などの企業が進出し、人口も8,000人から12,677人に増え現在に至っています。

しかし、我が国において少子高齢化・人口減少が進んでいる現状では、早島町の人口だけがこれからも増え続けることなどは考えられません。早島町に住みたい、進出している企業から土地はないかなどという要望はあるのですが、早島町の町域は県下最小できわめて狭く、活用できる土地は限られています。このような中で、10年先を見すえてどのようなまちづくりをすべきかについて、町内の方々や専門家の方々の知恵をお借りして検討していきたいと思えます。

町民アンケートによると《早島町に住み続けたい人》が93%で、5年前の89%よりも更に高くなっています。また、町民アンケートにおいて、総合計画の基本施策に対する満足度をみると、高齢者は、介護などの高齢者福祉に対して、また、子育て世帯は、子育て支援、学校教育などに対して満足度が高くなっています。これに満足することなく、今後の社会経済状況の変化に対応して早島町の町政をどうやっていくべきか、皆様方の知見をお借りして検討してまいりたいと思えます。

早島町の町域をみると、市街化区域にはまとまった土地はありませんし、市街化調整区域には点々と土地が残っているものの、50戸連担という制度のもとで十分な都市基盤がなされないまま、役場や駅の周辺などに家が建っています。このため、都市計画に基づいたまちづくりを行えるよう、これらの地域を市街化区域に入れていただきたいということで、立地適正化計画をつくり県や農水省にお願いしているところです。今後のまちづくりの課題としては、都市計画に基づいて役場や駅周辺を中心とした新しい市街地を形成することだと考えています。

もうひとつの課題は駅のバリアフリー化です。歴代の町長さんがその実現に向けて努力されてきましたが、JRさんという相手があることですから、これまでなかなか進みませんでした。最近、地方創生交付金による事業に対してJRさんの了解を得、ようやく動き出しました。駅が、単に岡山や香川に行くための乗り降りする場ではなく、交流の場あるいは情報発信の場になるようにしたいと考えています。もちろん、駅のバリアフリー化が実現した上でのことです。つまり、町の顔になるような駅を整備したいと考えています。この件については、町議会の皆さんとも検討し、町民アンケートを実施し、町民の皆さんの意見もいただきたいと考えています。このような都市計画を進めることによって、人口を少しでも増やしていきたいと考えています。計画の中では、13,500人を目標にしています。この件についても、皆さんの意見をいただきたいと思います。

三つ目の課題は、新型コロナウイルスの影響によって、生活様式が大きく変わりつつある状況にどう対応するかです。働き方にしても自宅でテレワークが行われ、会議にしても東京に出張することなく、リモート会議で行われ、職場に行かずに、仕事をするようになりつつあります。このような新しい生活様式に適合したまちづくりが必要になっています。阿部先生のご専門ではありますが、国連が唱えている《持続可能な開発目標（SDGs）》を取り入れ、早島町としても持続可能なまちづくりが求められています。10年先を目指す総合計画には、このような考え方を取り入れ、町内の方々や専門家の方々の知見を結集して、素晴らしい計画にしていきたいと思います。

【会長（阿部委員）、副会長（金子委員）の選出】

【事務局による資料説明】

（意見交換）

阿部会長 事務局より議論の前提になるような内容についてご報告がありました。説明された内容について、わからない点などについて質問があればご発言ください。

金子副会長 人口の推移・推計のグラフですが、社人研推計をみると、オレンジ色の線が下がり、人口が減少しています。一方、町の独自推計によると、緑色の線が2045年頃まで増加し、その後、13,500人に達するとされています。今から2年くらい前、出典は明確ではありませんが《岡山県下で唯一早島町だけ人口が増え、他の市町村は減る》というセンセーショナルな記事を見ました。岡山県は、我が国全体が人口減少下にある中、立地条件からみて、どちらかと言えば過疎県ではなく都市型の県で人口が維持されている方の県だと思います。その中で早島町だけが唯一人口が増えるというのは、どのようなデータから言えるのでしょうか。記憶が曖昧で申し訳ないのですが。

- 石井委員 平成27年の国勢調査において、2015年から2030年までの人口推計がでており、人口が岡山県全体でマイナス9.0%、倉敷市でマイナス5.5%に対し、早島町はマイナス0.2%で上位にランクされていました。
- 金子委員 社人研の人口推計は、著しく悲観的な推計ということでしょうか。もちろん人口が減ることが悪いと言っている訳ではないのですが。たとえ、権威のある研究所でも、前提条件の設定によって人口の推移が異なってくるということですか。
- 事務局 社人研とは、国立社会保障人口問題研究所の略称です。社人研の人口推計によると、2060年には我が国の総人口が8,000万人に減少すると予測されています。そこで国は、2060年における人口1億人を維持するため、市町村に《人口ビジョン》と《まち・ひと・しごと創生総合戦略》を策定させ、人口を維持しようとしている訳です。このような国の指導もあって、早島町も、人口を増やすために、どのような施策を推進すべきかを検討してきました。町長が申したように、目標人口13,500人を達成するため、駅や役場周辺を市街化区域にして、人口の受け皿をつくり、人口が減らないようにできるだけ若い世代を移住させたいなどという人口に関するストーリーを検討しているところです。そのため、出生率も2.1と設定しています。各自治体も、このような人口ビジョンが、まちづくりの根拠になっている訳です。
- 金子副会長 そうすると、早島町の緑色の線で表現されている人口の推移を達成するためには、このグラフの前提条件となっている施策や良好な居住環境の形成についてこの先10年間で実行することが、まちづくりの課題と言い換えてもいいということですね。重要なのは合計特殊出生率ですが、2.1というのはどの程度実現可能なのでしょうか。どなたか専門の方の意見を伺いたいのですが。
- 阿部会長 それを実現するため、子育て支援などを進めて、高度成長期のように、人口構成中の若い世代の割合を多くしようということですか。
- 金子副会長 東京から若い世代を移住させるよりも、現実的に考えれば、早島町は、転入元である岡山や倉敷よりもこのような点で住みやすいですよとアピールすればいいということですね。
- 阿部会長 早島町は、岡山や倉敷のベッドタウンというイメージがありますから、岡山や倉敷よりもこんなに良い居住環境で、住宅価格も安いとアピールすればいいということですか。
- 金子副会長 早島町は、子どもの医療費が安く、子どもに対する施策が手厚い町です。若い世代の移住を促進するには、これらの施策をもっと充実する必要があるのかも知れません。
- 阿部会長 それには財政的な裏付けが必要です。そのためには、流通産業の誘致や新しい地域産業を起こすことなどが必要になります。
- 金子副会長 早島町には、駅前開発や風水害対策、コロナ対策などさまざまな課題がありすぎて、財政的に保つのかどうか心配です。これまで、人口推計の前提条

件にこだわって、あれこれ質問してすみませんでした。

阿部会長 ほかにも、質問はありませんか。

秋山委員 目標人口を13,500人に設定されているが、もっと増やしてもいいと思います。若い人に対して、早島町はこんなところだというアピールが足りていません。総花的に事業を行うのは無理だと思うが、こんな事業をするという年次計画を対外的にPRする必要があります。岡山とか倉敷とかで仕事をしてきましたが、早島町を悪く言う人はいません。早島町には金があるといううわさも聞きます。子どもが大きくなったら働いて税金を払ってくれるのだから、子どもにどんどん投資する必要があります。早島町は静かなところで、子どもが遊ぶ公園もいっぱいあり、安心・安全な町だということを理解してもらえば、人口は必ずじわじわと増えていくと思います。

徳田委員 子育て中の人なら私よりも詳しいと思いますが、母親は待機児童の数を気にしています。待機児童の数は影響力が大きく、待機児童ゼロというのは子育て世帯を呼び込むものになるのでそこに力をいれてもよいと思います。また、シングルマザーは働きながら子育てをしているので、そういう人にやさしいまちとなるとすべての子育て世代にやさしい町のイメージが形成されると思います。

藪木委員 総合計画は基本構想に基づいてつくられています。基本構想は、町民の立場に立って、町民が安心していつまでも幸せに暮らしていけるような計画にすべきだと思います。総合計画を別の側面から見ると、早島町としてサステイナブルなまちづくりが求められています。また、早島町は財政豊かな町をつくっていかねばなりません。早島町は、岡山、倉敷に囲まれたベッドタウンであるとともに、国道2号が町の真ん中を通り高速道路に近い流通拠点でもあります。しかも県下で一番面積が小さい町であるため人口密度が高い。そのメリットは、人の絆が生まれやすい点にあります。このような利点を生かして、このような町にしたいという姿を示す必要があります。すべての町民が満足するようなまちづくりは無理だと思います。静かな町を望むのでは、騒がしくなるようなものは我慢しなければなりません。まちづくりにメリハリをつける必要があります。サステイナブルな町にするため、このような町にしたいという方向性を示せばそれでいいのではないかと思います。勘違いでしょうか。

阿部会長 間違っていない。何か分からない点があればご質問下さいといったことが混乱を招いたようです。これから、町の強みやメリットをどう認識するのか、それをどのように生かしていくのか、これからのまちづくりの方向性、そのための重点的な取り組みをどうするのか、総合計画はどうあるべきかなどについて幅広くご意見をいただきたいと思います。今日は自由に発言いただき、事務局、そして今日は出席されていませんが、コンサルタントにとりまとめていただき、次回につなげていきたいと思っています。

真鍋委員 資料の35ページ《アンケート結果から町が考える課題など》をもとに、若干意见を述べさせていただきます。《道路の整備と交通安全の確保》、《子ども

もの遊び場の確保》、《公共交通の整備》、《住民自治の強化》などは確かに重要な課題だと思います。早島町に住みたいと思い、外部から移住して来られ、人口が増えるのはありがたいのですが、現状でもインフラ整備や住民サービスが、人口や企業の増加に追いついていません。たとえば、保育園をつくればつくるほど子どもが増え、いちごっこでいつまでも追いつきません。このよう現状を踏まえて、審議会では、はたして目標人口13,500人は適切なのかどうか、今でさえ人口増に対応できていないのだから、人口の推移がもっとゆるやかになるよう目標人口を再設定すべきではないかなど、基本に立ち戻って議論していただきたいと思います。

佐々木委員 これまで人口が増えることはいいことだという観点から議論されているように思います。確かに幼稚園が保育園になり、待機児童は減りました。しかし、小学校はひとつしかなく、クラスも4~5クラスでパンパンな状態です。学童保育は、岡山や倉敷だと小学生6年生までが対象ですが、早島町は3年生までです。現状は、学童保育に余裕のある状態ではありません。これから若い世代の移住が増えてくるとなると、子どもが保育園の時代は大丈夫かも知れませんが、学童保育はパンパンな状態で、子どもが学童には行きたくないと言いつつ出すと思います。このような状態なので、先生方もイライラされ、そのせいで子どもたちもイライラしています。保護者からみて、今の学童保育の状態は子育て支援をうたっている早島町にとってふさわしくないと思います。現在、小学生4~6年生はコロナの関係もあって自宅に籠もりきりで、子どもの発達面で心配です。町内に子どもが遊べる公園はあるのですが、いろいろと制約があり、子どもたちは数分公園にいてすぐ帰るような状態です。若い世代の移住をこれからも促進したいのであれば、子どもたちの乳幼児期、学童期、青年期の居場所づくりをどうするのかについて、学童保育や公園のあり方、学校教育、生涯学習のあり方などを含めて再考する必要があると思います。

根木委員 おっしゃるとおりだと思います。人口が13,500人になることが、早島町にとっていいことなのか、その根拠を示して欲しいと思います。そうなったとき、子どもの数はどうなるのでしょうか。道路や通学路はどうなるのか、財政的にどうなるのかなど、人口増の影響について精査してほしいと思います。

平岡委員 早島町には小学校・中学校が1校ずつしかなく、人口が13,500人になったとき、新しくつくるのか検討する必要があります。また、早島町に住み続けた人が93%いるということですが、町内には店が少なく、国道2号以北には一軒もありません。ほんとうに町民は満足しているのかと思います。国道2号によって町域は南北に分断され、南側が住みやすく、北側は空き家も増えています。早島町の道路は狭く、通学路としては危険です。人口が増えたとき、通学路はどうなるのかなど、人口増の影響を踏まえて、その根拠を示して欲しい。

徳田委員 町民の目線ではなく、早島町が外部からどのように見られているのかを考えることも大切だと思います。やはり早島町は住みやすいという人が多い。コミュニティバスが走っていることを岡山市民も知っています。将来、家をど

こで持つかと言った場合、早島町はその候補地に挙がってきます。岡山県下で人口が増えている自治体は、総社市と早島町だけです。他は軒並み減っています。他から見ると早島町はうらやましくてたまらないはずです。現在の日本で人口が増えるのはものすごく幸せなことです。人口が増えている市町村は、全国的には大都市圏に多く、東京に偏っています。現状を見ると、子育て・教育環境の改善・確保を図れば早島町はさらに発展するのではないかと思います。単に人口を増やすために、どうするという議論ではなく、生活者の目線に立って生活環境の質の向上を図れば、必然的に人口は増えるという観点から議論を深めて欲しいと思います。

阿部会長 このような議論は、総合計画の中で触れられているのですが、今回は、人口の話が中心になってしまいました。

佐藤(均)委員 町民アンケートの自由意見をみると、町の職員の方に対する辛辣な意見が20数項目見られます。総合計画の策定の前に、町としては、このような意見に対して公正・公平な立場から適切に対処しないと、計画づくりもうまく行かないのではないかと思います。

佐藤(周)委員 資料16ページの《新定住促進地区》のイメージ図ですが、これは理想的なまちづくりだと思います。このような住宅地が出来れば、人口は増えると思います。しかし、制度上、農振地域であり、一方、都市計画区域でもあるため、その間のせめぎ合いがあつて、国や県に頭を下げて、なかなか難しい面があります。農振地域を外して、他の用途に変更するには、このような力関係にあることを踏まえ、岡山と倉敷に囲まれ、住宅需要はいくらでもある訳だから、自信を持って雷を落とすくらいの勢いで交渉しないと、なかなか実現できないと思います。早島町に住みたくても家が購入できずに他で住んでいる人もいるくらいです。

岩本委員 わたしどもの流通センターは、立地上の優位性が高く、近くにインターチェンジがあり、国道2号バイパスが通っています。インターチェンジを利用すれば、南は高知、北は米子、西は広島、東は大阪近く、西宮まで行けます。このような点が評価され企業誘致が順調に行われてきました。早島町に住んでおられる方も、岡山や倉敷に近く、車で移動すれば医療機関もあり、このような立地性が評価されて住みやすさにつながっているものと思います。近年は、当流通センターも車が混雑して抜け出せず、インターチェンジに乗るのに時間がかかるようになりました。朝の通勤時には車が渋滞し、にっちもさっちも行かない状態です。このため、次第に立地上の優位性が持続できなくなりつつあります。早島町さんも同様だと思います。このため、この先10年、国道2号の高架化の計画が実施に移され、交差点等の一部で工事が始まるとともに、総合計画においてアクセス道路等の整備計画が検討されることを期待しています。当流通センターにおいても、早島町さんのこのような動きと連携し、整備を進めてまいりたいと思います。

日下委員 早島町さんは、財政状況もよく、これほど恵まれた自治体はないと思います。よそ者の目線からみて、いろいろなものが水準以上だと思います。法人

税の伸びをみても、こんなに順調に伸びているところはありません。この辺は、町民の皆さんは、誇りを持っていただきたいと思います。資料16ページの《新定住促進地区》のイメージ図ですが、単にゾーン分けするだけでなく、まちづくりにどのような特徴を持たせるのかなどもっとコンセプトワークに力を入れてほしいと思います。町長さんが言われたように、早島町は歴史的な伝統のある町です。このような視点を生かす必要があります。また、インターチェンジという交通結節点があるということは、たいへんな利点だと思います。道路や通学路について、いろいろ議論がありましたが、どこの市町村も抱えている問題で、私が住んでいる倉敷の中心地よりもいいほうだと思います。よそ者から言わせていただくと、マイナスだけに目を向けるのではなく、早島町の長所に目を向け、それを生かしたまちづくりが必要だと思います。

原田委員

私は、岡山の出身で、勤務地が早島町です。早島町は、私にとって住みたい町です。早島町は、立地上の優位性などで評価されていますが、私は、住んでいる人が魅力的だと思います。まず人を基軸に据え、その延長上に駅前宅地分譲とか、人を呼び込む施策を推進する必要があります。そのためには、現在住んでいる人に対応する施策と、新たに移住した人に対応する施策のバランスをとることが重要だと思います。たとえば駅前の宅地分譲地が水害の被害などを受ける場合を想定し、国道2号以北の高台の再生についても考えておく必要があると思います。このように配慮した上で、若い世代の移住を前提に、学童保育や学校教育・生涯教育などの見直しなどを加味して総合計画をまとめる必要があると思います。

事務局

人口13,500人が取り上げられ、議論されてきました。資料4ページの《年齢3区分人口の推移》をみると、2015年の老年人口は27.6%で、早島町は超高齢社会です。人口ピラミッドはかなりいびつになっています。このため、人口の受け皿として《新定住促進地区》などを設定し、若い世代の移住を促進し、バランスのとれた人口構成に戻すことによって持続可能なまちづくりが可能になります。13,500人という総量自体が問題ではなく、バランスのとれた人口構成に戻すことこそが重要なのです。

総合計画は、ご存知とおり、町政の最上位の計画で、その下にさまざまな個別計画があります。これまで道路や学童保育などについていろいろ議論があり、ご指摘いただきましたが、それらは、総合計画と個別計画の整合性が不十分なことの表れだと思います。第5次総合計画の策定に当たっては、庁内に策定委員会を設置し、皆さんのご意見を参考にしながら、総合計画と個別計画が、相互に関連づけられるよう、つくって参ります。それでは、会長さんにお返しいたします。

阿部会長

たくさんご意見をいただきまして、ありがとうございました。事務局にとって参考になるのではないかと思います。今日の議論の流れとしては、人口増路線に対して、十分にインフラ整備や住民サービスが提供されるのかという疑問が投げかけられました。そのような疑問に対して、どういう風に考えているのかという説明がなかったので疑問が広がったのだと思います。

町長さんは、マニフェストで《継続と挑戦》とされています。この《挑戦》という言葉聞いて、皆さんの疑問が広がったのではないかと思います。1期目の公約では《いつまでも住み続けたいまち》と言ひ、2期目では《住んでいて良かった》とされています。《挑戦》というのは、インフラ整備や住民サービスが十分提供されるという裏付けがあつてはじめて言えることだと思います。皆さんから疑問点がいろいろ出されていますので、事務局で整理し、総合計画に盛り込んでいってほしいと思います。

都市計画の立場から現在の町内の市街地や道路の状況を見ると、何故こんなに町民の評価が高いのか不思議でなりません。というのは、市街地を通っていたのですが、ちょうど通学の時間帯で、車が混み合い、子どもたちがきわめて危険な状態になっていると思いました。何故このような状態が放置されているのか、不思議に思ひました。

行政サイドは、《新定住促進地区》というプロジェクトを通じて、町内のインフラや住民サービスを再整備するきっかけにしたいと考えているのではないかと思います。それと合わせて、若い世代が増える場合の学童保育や住民サービスについて再考し、総合計画に盛り込む必要があると思います。

もう一つ懸念されるのは、住宅団地の分布状況です。国道2号によって町域は南北に分断され、北側の住宅団地は孤立していくのではないかと云うことです。このようなことは、いろいろなところで起こっているのですが、早島町でも深刻になるのではないかと思います。総合計画の中で、対応策を考えておく必要があると思います。この辺で、今日の審議会は終了します。

事務局

長時間にわたり大変ありがとうございました。今日の議論についてとりまとめ、報告させていただきます。次回は、職員のほうでとりまとめる基本施策の効果検証結果や町民アンケートによる基本施策への満足度指数等の総合評価に基づき、《目指すまちの姿》等について議論していただければと思います。

いろいろと作業がありますので、第2回新興計画審議会は、11月頃と考えております。今日言えなかつたことは、メールや、役場に来ていただいてご助言いただければ思ひます。

これをもちまして第1回振興計画審議会を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

以上